

## 気になる言葉

校長 川村 尚史

### 1 絶対に使ってはいけない言葉

友達と言い争いをしているときに相手に「死ね」と言ったり、何かに腹を立てたときに独り言で「死ね」とつぶやいたりする子がいます。メディアの影響なのか、身近な誰かが使うのを真似しているのかは分かりませんが、「死ね」という言葉が子どもたちの中でとても軽く使われているのが残念で仕方ありません。

「死ね」という言葉は、相手の存在そのものを否定する絶対に使ってはいけない言葉です。学校では、この言葉のもつ意味や重みを子どもたちに理解させ、決して使うことがないように、繰り返し指導して参ります。もしも、家庭や地域で、子どもたちがこの言葉を使っているのを耳にすることがありましたら、聞き流すことなく、注意していただきますようお願いいたします。

### 2 相手や場面に応じた話し方

教務室の入り口で「〇〇先生いますか？」と言う子がたまにいます。そういうときは、室内にいる教員が、「いらっしゃいますか」が正しい言い方であることを教え、その場で言い直させています。他にも、学年が上の人を呼び捨てで呼んだり、教員と会話をしているのに「うん」と返事をしたりと、目上の人に対する正しい言葉遣いができない子がいます。低学年ばかりか、高学年でもこうした様子を見かけることがあります。

親しみをもってフランクなやりとりをしているのかもしれませんが、相手や場面に応じて敬語を正しく使うことができないのは困ります。相手に失礼にあたったり不快な思いをさせたりしたのでは、人間関係を円滑に築くことができないからです。「親しき仲にも礼儀あり」を徹底させたいものです。

### 3 注意されたときの一言

ある日の昼休み、廊下を走っているのを注意した教員に対して、「なんで俺だけ？」と強い口調で言い返した子がいました。ふと、自動車のスピード違反で捕まった人が、警察官に同じようなことを言っていたテレビのドキュメント番組の一場面を思い出しました。

他にも廊下を走っている人がいるのに、たまたま自分だけ注意されたことが納得いかないのでしょうか。しかし、他の人がどうであれ、自分が廊下を走ったことは事実であり、そのこと自体をきちんと認め、謝ったり、反省したりすることが大切です。

ルール違反を指摘されたときに、「なんで俺だけ？」ではなく、素直に「ごめんなさい」と言える子を育てていきたいです。

11月の生活目標は「友だちのよいところを見つけよう」です。“ふわふわ言葉”で、温かいつながりを広げることを目指しています。全校朝会で生活指導担当の教員が劇を見せて意識付けを行ったり、各学年ごとにめあてを決めて取り組んだりしています。

一人一人が自分の使う言葉にもっと敏感になり、これまで以上に優しさと笑顔があふれる藤塚小学校になることを願っています。